2. ニホンジカが影響を及ぼすおそれのある代表的な動植物の分布

南アルプスにおいては、1990年代末からニホンジカによる高山・亜高山帯の植生への影響が報告されるようになり、その後約 10年間で急速に拡大し深刻な状況となっている。 北アルプスについても今後、ニホンジカが高山・亜高山帯へ侵入すれば同様の影響が懸念されることから、本調査対象地域において、特にニホンジカの分布拡大により影響が及ぶことが懸念される植生及びライチョウの分布状況を各図にまとめた。

(1) 植生

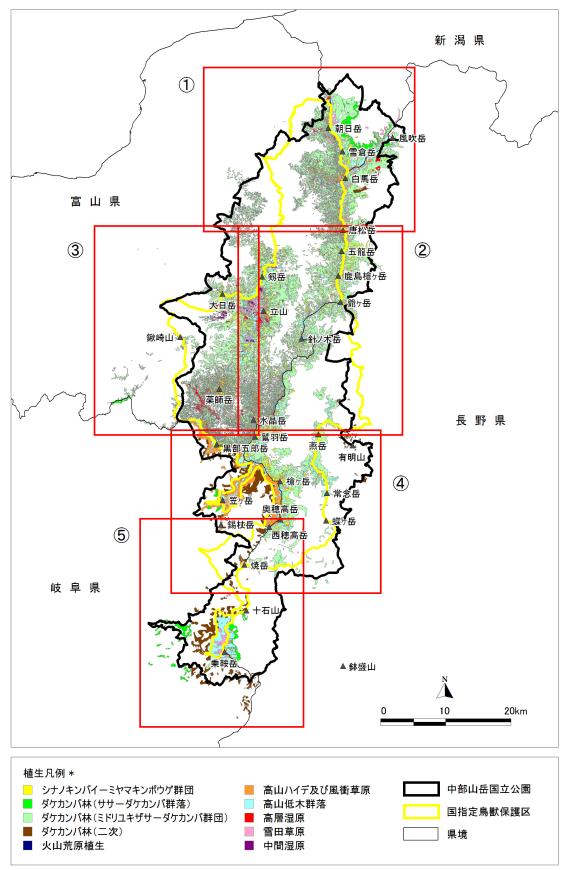
南アルプスにおける植生への影響(中部森林管理局,2007; 2008、自然環境研究センター,2009)を参考とし、環境省の植生図から、ニホンジカによる影響を受ける可能性がある高山・亜高山帯の植生とその周辺の植生を抜き出し、図 $II-12\sim17$ に示した。

植生図の作成にあたっては、環境省自然環境局生物多様性センターの自然環境 GIS 情報 植生図 (http://www.biodic.go.jp/trialSystem/shpddl.html) から 5 万分の 1 植生図をダウンロードして使用した。5 万分の 1 の植生図は第 $2\sim5$ 回自然環境保全基礎調査植生調査において順次作成、修正が行われたものである(作成した各図には出典を「第 5 回自然環境保全基礎調査植生調査」と表示)。

今回は特に高山・亜高山帯のいわゆるお花畑に相当する群落や湿原、それらの周辺にある高山低木群落、また南アルプスにおいてニホンジカの重要な生息の場のひとつとして指摘されているダケカンバ林(中部森林管理局,2007;2008、自然環境研究センター,2009)等を中心に図示した。今回図示した植生図の凡例に対応する自然環境保全基礎調査植生調査の集約群落名は表 Π -1のとおりである。

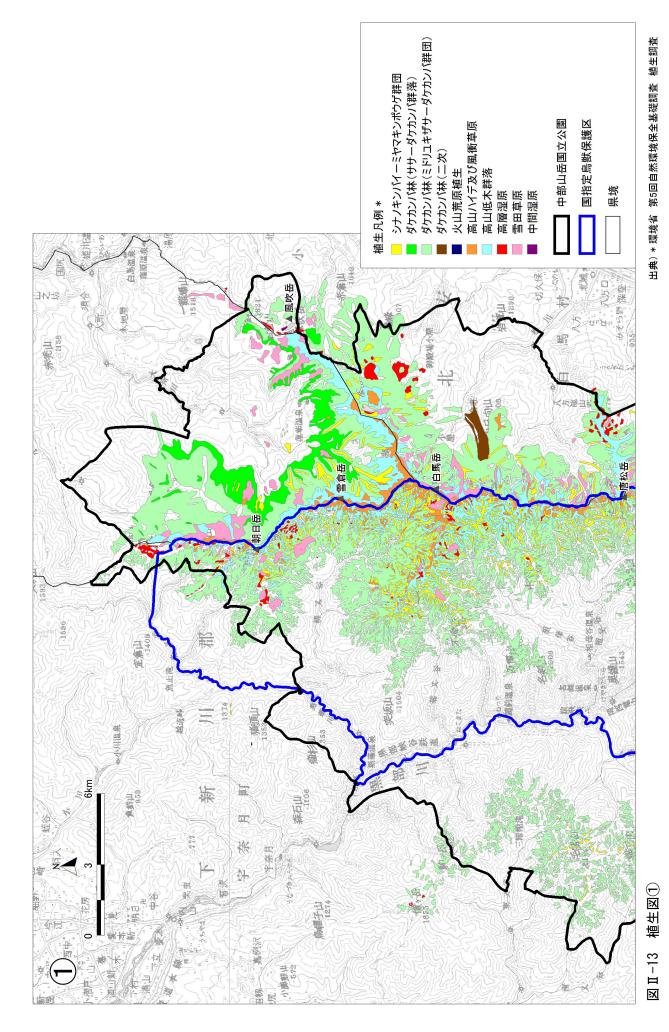
表 II-1 植生図の凡例の対応

今回図示した植生図の凡例	自然環境保全基礎調査植生調査	
	集約群落コード	集約群落名
シナノキンバイーミヤマキンポウゲ群団	21001	シナノキンバイーミヤマキンポウゲ群団
ダケカンバ林(ササーダケカンバ群落)	20600	ササーダケカンバ群落
ダケカンバ林(ミドリユキザサーダケカンバ群団)	20800	ミドリユキザサーダケカンバ群団
ダケカンバ林(二次)	30400	ダケカンバ群落
火山荒原植生	81700	火山荒原植生·硫気孔原植生
高山ハイデ及び風衝草原	10200	高山ハイデ及び風衝草原
高山低木群落	10100	高山低木群落
高層湿原	80100	ツルコケモモーミズゴケクラス
雪田草原	10300	雪田草原
中間湿原	80200	ヌマガヤオーダー

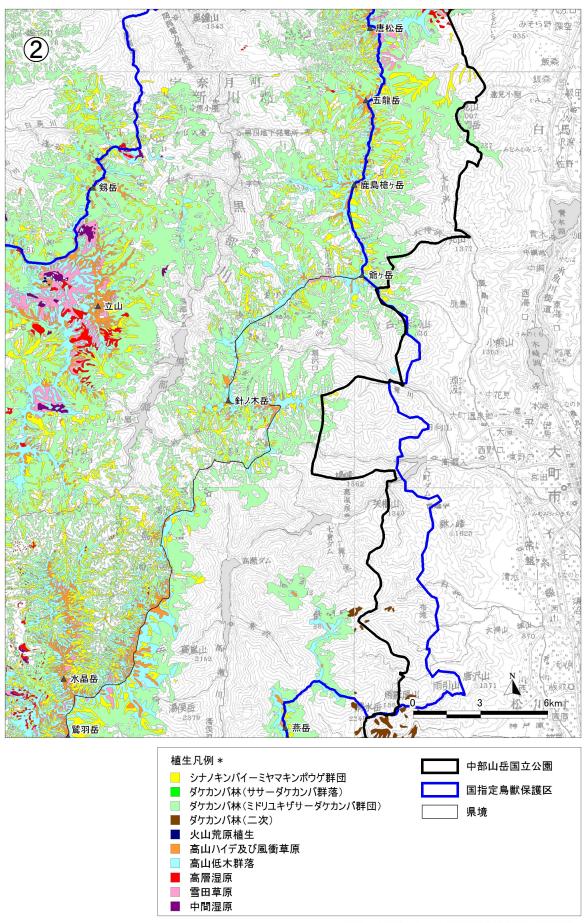


出典)*環境省 第5回自然環境保全基礎調査 植生調査

図Ⅱ-12 植生図(全域)

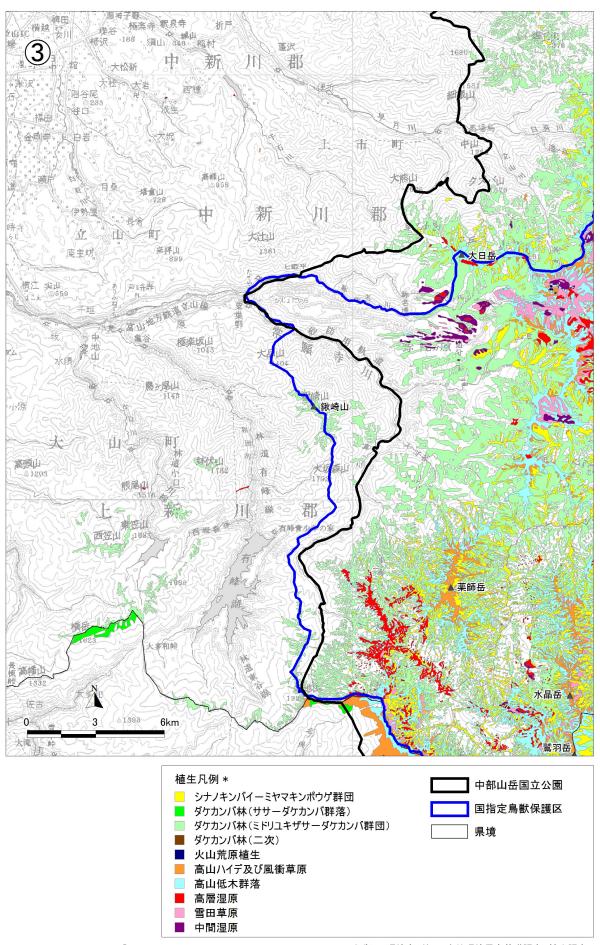


注:亜高山・高山帯の植生の中でニホンジカによる影響を受けやすいと考えられる植生とその周辺の植生を抽出して図示した。



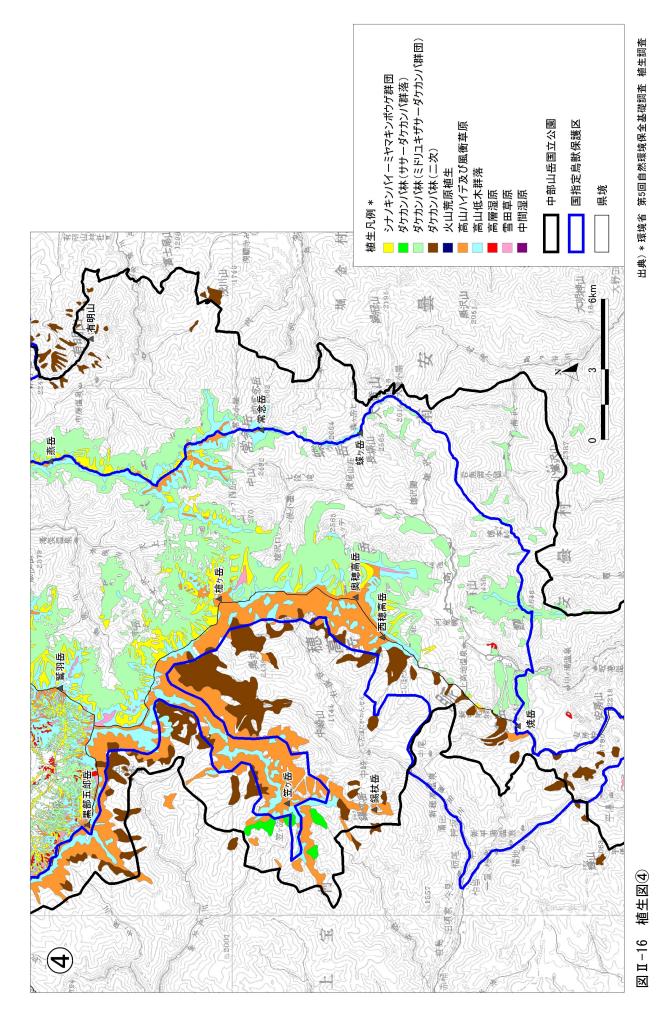
図Ⅱ-14 植生図②

出典) * 環境省 第5回自然環境保全基礎調査 植生調査

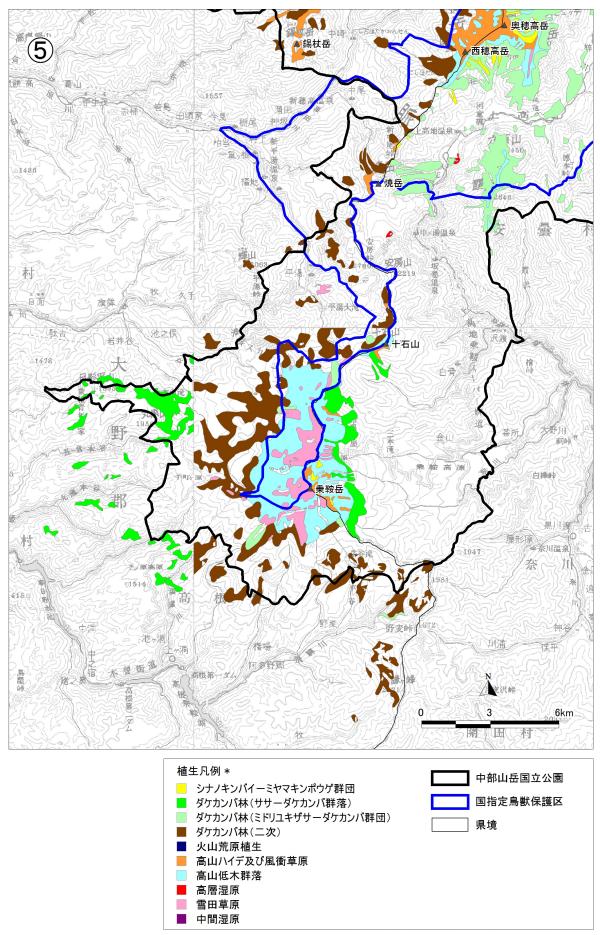


図Ⅱ-15 植生図③

出典)*環境省 第5回自然環境保全基礎調査 植生調査



注:亜高山・高山帯の植生の中でニホンジカによる影響を受けやすいと考えられる植生とその周辺の植生を抽出して図示した。



図Ⅱ-17 植生図⑤

出典) * 環境省 第5回自然環境保全基礎調査 植生調査